

TARO RACE REPORT

TARO SEKIGUCHI Team TARO PLUSONE with SDG 2024



Coca-Cola 2024 Suzuka 8 hours

2024 FIM世界耐久選手権 第3戦
"コカ・コーラ" 鈴鹿8時間耐久ロードレース 第45回大会

- 三重県 ■ 鈴鹿サーキット ■ 1周= 5.821km
- クラス: EWC
- 7月17日(水): テストセッション
- マシン / BMW M1000RR
- 7月18日(木): 公式車検
- タイヤ / BRIDGESTONE
- 7月19日(金): フリー走行・公式予選
- 7月20日(土): 公式予選2・TOP10 トライアル
- 7月21日(日): 8時間耐久 決勝

#6 関口 太郎 / 奥田 教介 / ベン・ヤング

予選	23番手	best : 2分08秒122 average : 2分08秒944
決勝	13位	214周



酷暑の8時間を戦い抜きチーム最高位を更新！

チームとして3度目となった2024年の鈴鹿8耐。今年も関口を中心に昨年に続き奥田教介を、3人目には、カナダ選手権(CSBK)のPRO SUPERBIKEチャンピオンのベン・ヤングを起用した。ベン、レーススケジュールの都合で6月上旬のテストのみ参加できなかったが、初乗りでタイムも出してきており、何より性格がよかったことが決め手となった。2度目の事前テストでは、関口と奥田が2人で走り込み、レースウィークに向けて準備を整えた。不安要素としては、3人一緒に走っていないことだ。6月上旬のテストは、直前に関口の父が他界。関口は鈴鹿に顔を出したが走っていないからだ。

また、今年もドイツのアルファレーシングに来てもらったが、昨年担当してくれたジュリアン・ベニッツは諸事情で他チームに移ったため、上司でアルファレーシングのナンバー1のピーター・スハウテンが担当してくれることになった。レースウィークからの合流となり、前週にMotoAmericaの出張があったため、アメリカから日本に入るハードスケジュールで駆けつけてくれた。ナンバー2のミハエル・リーフェルト、マネージャーのセバスチャン・ホフマンも一緒に来日。水曜日のテストセッションから一緒に作業していったが、アルファレーシングの1-2だけに、さすがの動きでサポートしてくれた。

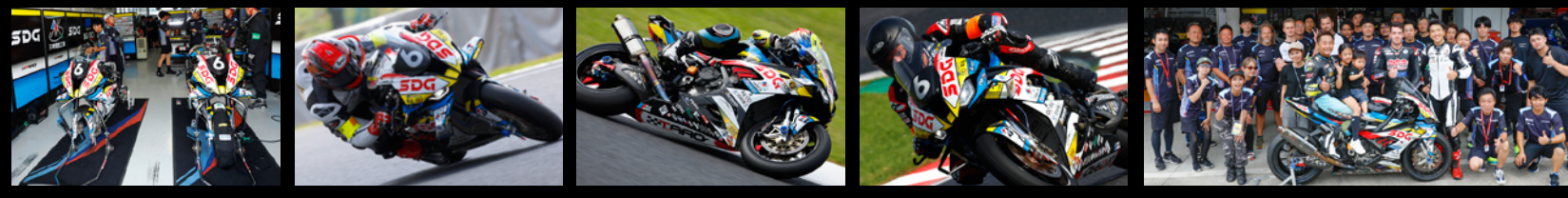
木曜日の車検日をはさみ、金曜日に公式予選が行われた。各ライダーが20分のセッションを2回走り、2人の合算タイムの平均で順位が決まる。まずブルーライダーの関口がアタックし2分08秒122をマーク。続いてイエローライダーの奥田が2分09秒766を記録すると、レッドライダーのベン、2分10秒008が続いた。関口と奥田の合算タイムは2分08秒944となり、グリッドは23番手となった。予選後にエンジンを載せ換え、土曜日のフリー走行で確認し、決勝日を迎えていた。

スタートライダーは昨年に続き奥田が務める。11時30分にスタートが切られると、一斉にマシンに駆け寄って

く。奥田がマシンにまたがりエンジンをスタートするが、すぐにかからず、少し出遅れてしまう。オープニングラップを29番手で終わると徐々にポジションアップ。ペースを上げていこうとするが、レースウィークで一番暑くなったからか転倒も多く見られていた。奥田は慎重に走ることを選び21番手までポジションを上げてベンに交代する。ベン、初めての鈴鹿8耐だが好アベレージで周回し19番手にポジションアップ。さらに変わった関口は、厳しい暑さの中、ペースを上げ16番手に浮上する。

奥田の2スティント目は、暑さのためペースを上げられなかったが、ベンと関口がハイアベレージで周回。15番手辺りをキープしていく。

レース終盤になると上位陣でも転倒やトラブルが相次ぐのを尻目に、最後のスティントに出た関口は、快調に周回を重ね、さらに順位を上げると13位でゴール。一度もセーフティーカーは入らず、周回数に214周を数え、暑く長いレースを終えた。



まずは大きなアクシデントもなく無事にチーム最高位の13位で終わることができてうれしいです。今年もスタートライダーを担当させていただいたのですが、エンジンが一発でかからず少し出遅れてしまいました。決勝日は一番暑くなったので周りもペースが上がっていませんでしたが、周りの状況が落ち着いてから出遅れた分を取り返そうと徐々にペースを上げていこうと思っていました。すると転倒が多くなっていましたので、最初のスティントは確実にいこうと決めました。その後も2回ほどヒヤリとした場面がありましたし、暑さも厳しくペースを上げられなかったので、2人に

負担をかけてしまっていました。関口選手は安定のハイペースでしたし、ベンもいいアベレージで走ってくれていたのですが、最後は全力を出し切ろうと3スティント目によりやくペースを上げることができたのはよかったと思います。今年もTeam TAROで参戦できたことを関口選手を始めチーム、スポンサー各位に感謝いたします。

奥田 教介

カナダ選手権(CSBK)PRO SUPERBIKEで走っているのもBMW M1000RRにブリヂストンという同じパッケージですが、マシンもタイヤ、ECUも違うので、慣れる必要がありました。決勝日は、とにかく長く暑い一日でしたが3スティントを楽しむことができました。1スティント目は、25周走ったのですが、その後、しっかりケアしていただき身体を休めることができました。2スティント目の方が走りやすかったですし、良いペースで走ることができました。Team TAROは雰囲気も良かったですし、みんなと一緒に楽しく仕事ことができました。コミュニケーションをいかに取れるかが大事だと思いますが、Team TAROには最後まで楽しんでレースができる環境が整っていました。鈴鹿8耐をTeam TAROで走ることができて良かったです。関口選手を始めチームの皆さん、応援して下さった皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。

いいますが、Team TAROには最後まで楽しんでレースができる環境が整っていました。鈴鹿8耐をTeam TAROで走ることができて良かったです。関口選手を始めチームの皆さん、応援して下さった皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。

ベン・ヤング

チームとして3年目の鈴鹿8耐を無事に終わることができました。こうして継続して参戦できるのは、SDG様を始め、三明電気工事様、多くの応援してくださっている皆様のおかげです。本当にありがとうございます。目標にしていたトップ10には届きませんでしたが、チームベストを更新する13位でゴールすることができました。奥田選手と組むのは3年目ですし、今年、初めて起用したベン選手もTeam TAROのスタンスをよく理解してくれていました。何より性格も本当にいいので、やりやすかったです。何と言っても事前テストから一度も転倒はありませんでした。これは、プライベートチームとしては、とても大きなことです。チームのみんなも本当に頑張ってくれましたので、レースも順調に進めることができました。この経験を全日本後半戦、そして来年の鈴鹿8耐に活かしていこうと思っています。今年も多くの応援をありがとうございました。

は、プライベートチームとしては、とても大きなことです。チームのみんなも本当に頑張ってくれましたので、レースも順調に進めることができました。この経験を全日本後半戦、そして来年の鈴鹿8耐に活かしていこうと思っています。今年も多くの応援をありがとうございました。

関口 太郎